

プロレスの闘だまりの時間

岡野 雄一

福祉
寄り添う

先週書いた長女の成人式の年
に、長男は中学を卒業しました。
長女が在学していたときは「普通
の学校」という印象でしたが、長

中は

「たまにはお母さんの見舞いに
行かんか」「…よか。行きとつない
い」。

(編集委員・三宅大介)

野外音楽祭に向け、リハーサルする
「カラフル・パレット」のメンバー
たち。イルミネーションも手作りだ



バリアフリー野外音楽祭「パ
レットピクニック」 11月7日
午前10時半～午後3時半、福岡
県宗像市「道の駅むなかた」
芝生広場。複数の音楽バンドが
生演奏を披露するほか、参加者
でダンスを楽しむ企画も。地元
の社会福祉法人さつき会主催の

「リトルさつき祭り」と同時開
催で、福祉事業所などのバザー
もある。NPO法人「カラフル
・パレット」は訪問演奏の依頼
や活動の協賛企業も募集中。詳
しくはホームページ「NPOカラ
フル・パレット」で検索を。雨
天時も開催する。

障害ある人に出張ライブ

外出機会が少ない障害のある人の自宅や施設、病院を訪れ、社会人音楽バンドの生演奏を披露しているNPO法人「カラフル・パレット」(福岡市東区)が11月、福岡県宗像市で「バリアフリー野外音楽祭」を開く。法人の理事長でボーカルの浅野多佳子さん(57)は同県立特別支援学校の元教員。「障害の種類が違うと、その子も家族も共に活動することが少ない。一堂に会して、思う存分楽しんでくれれば」。そんな姿をぜひ、一般の人にも見てほしいと願う。

福岡のNPO法人
自宅、施設、病院へ

肢体が不自由な子ども、知的障害児の特別支援学校に9年ずつ在籍し、訪問教育も長く担当した浅野さん。ベースギターやバイオリンに親しみ、オフには仲間どヘビーメタルバンドを組み、ライブ活動もしていた。

訪問先のステージは必ず、手作りの電飾で彩る。「皆さん、こんにちは!」。アップビートの伴奏に負けず、ひとり声を張り上げ、浅野さんは登場する。

傾聴記

来月に野外音楽祭 「一緒に楽しみ偏見なくそう」



障害者施設のイベントで、参加者と手をつないで歌う浅野多佳子さん(左) =2018年、提供写真

「リトルさつき祭り」と同時に開催で、福祉事業所などのバザーもある。NPO法人「カラフル・パレット」は訪問演奏の依頼や活動の協賛企業も募集中。詳しくはホームページ「NPOカラフル・パレット」で検索を。雨天時も開催する。

今回、初めて企画した音楽祭は、浅野さんの「悲願」だった。知的障害のある卒業生から家族同士も交流を

15カ所を回る。メンバーの個人負担だけでは続かないと考え、18年にNPO法人化。1回2万～3万円程度のギャラも設定した。

「体調を崩していくても訪問日にはすっかり良くなり、主治医を驚かせる子もいる」。音楽の力に、浅野さんは手応えを感じている。

障害がある人同士、また障害がない人も同じ空間で楽しめる「場」があれば、分断も、偏見もなくしていくチャンスになると考えた。「車椅子は砂利とか少しの段差でも不便なんやね、知的障害の子はあるやつて体を揺らして喜ぶんやね、と、一緒に居れば、誰でも自然に分かつていくのでは」。知り合いの福祉事業所や企業、行政関係者の協力を得て、開催が決まった。浅野さんは今年3月、定年前に教員も退職。「もっと活動に全力投球しよう」と決意した。音楽祭も「とりあえず5年」は続けたい。「自分たちが持続可能な活動を確立していけば、全国の津々浦々で、同じような取り組みが広がるかもしない」。そんな期待も抱いている。

体調が良くなつた

訪問での演奏は、教え子の外出が難しいことから思いついた。親たちは、大きな車椅子や寝台で移動する子は「物理的に無理」、知的障害がある子や寝台で移動する子は「物

はボランティアサークルとして始めた。

道具も全て自費で持ち込み、合言葉は「居ながらにしてハ

ウステンボス」。ドラムの響き、アンプから伝わる重低音など、生演奏の迫力に、寝たきりで表情の乏しい子も目をぱりぱり開け、口元を緩ませる。のつながりが薄いから、その解消を訴える声が社会に届か

ない」ようにも映る。

一方で、教え子たちを実際

に連れていくと打診したラップアハウスやカラオケ店から「車椅子のお客は想定外」と音響や照明、着ぐるみや小半のバンド仲間。毎回有志を募り、長いときは数カ月前から半のバンド仲間。毎回有志を募り、長いときは数カ月前からから稽古する。

児は最後の1フレーズの歌詞をボーカルと「ぴったり合わせて」絶叫、やんやの喝采を浴びた。訪問を毎年依頼する家族や施設もあり、多いときは年間15カ所を回る。メンバーの個人負担だけでは続かないと考え、18年にNPO法人化。1回2万～3万円程度のギャラも設定した。

「体調を崩していくても訪問日にはすっかり良くなり、主治医を驚かせる子もいる」。音楽の力に、浅野さんは手応えを感じている。

障害がある人同士、また障

害がない人も同じ空間で楽しめる「場」があれば、分断も、偏見もなくしていくチャンスになるとを考えた。「車椅子は砂利とか少しの段差でも不便なんやね、知的障害の子はあるやつて体を揺らして喜ぶんやね、と、一緒に居れば、誰でも自然に分かつていくのでは」。知り合いの福祉事業所や企業、行政関係者の協力を得て、開催が決まった。浅野さんは今年3月、定年前に教員も退職。「もっと活動に全力投球しよう」と決意した。音楽祭も「とりあえず5年」は続けたい。「自分たちが持続可能な活動を確立していけば、全国の津々浦々で、同じような取り組みが広がるかもしない」。そんな期待も抱いている。

ご意見、ご感想、情報を寄せください。お名前と連絡先は必ず明記してください。

【ファックス】092(711)6246 【メール】syakai@nishinippon.co.jp 【郵送】〒810-8721(住所不要) 西日本新聞社会部福祉取材班